

障害者週間

カレンダーも販売中!

全国の共同作業所で働く障害のある人たちの作品を紹介した2002年版のカレンダーです。1部1,300円で販売。

杉の木園☎(827)2310
つどいの家☎(828)4472



1人1台のミシンを使い、工場などで使うぞうきんを作ります

泉地区、静かな住宅地の一角。「希望の家」は知的・身体の障害者十一人が通う小規模作業所です。近くには幼稚園、小・中学校があり、毎日、子どもたちが元気にあいさつを交わしていきます。「地域のみなさんは、小さい頃から障害者につき合っているの、身構えるようなことはありません。自然体で接してくれることが、障害のある人たちにとって何より幸せなことです」と施設長の残間弘子さん。今年で十六年目になる県内で一番古い民間の作業所は、ゆつくりと時間をかけて地域に溶け込んできました。その「希望の家」



お歳暮の箱詰め作業。楽しく仕事するのがモットーです

小規模作業所 まちの中の作業所だから 地域とのふれ合いが あります

も来年度には社会福祉法人への移行をめざしています。施設もリニュアルし、通所者も少し多くなる予定です。新しい施設には交流スペースを設け、地域のお年寄りや子どもたちが集うにぎやかなスポットにしたいと考えています。新屋敷前にある「秋田いなほ福祉作業所」には、知的障害者十七人が通っています。社会との関わりを大切にしようと、全員バスか電車で通勤。仕事をしたり、大正琴を習ったり、何事にも一生懸命取り組むのが施設の方針です。「いつか親が亡くなっても、子どもたちだけで生きていけるよう、



精神に障害のあるかたが集う「のぞみ協同作業所」。仕事のほか、クリスマス会や新年会などの行事を通して仲間と触れ合い、社会復帰を考えていく場所です。

1日の始まりと終わりは必ずあいさつ。人と人とのコミュニケーションの大切さを学んでいます。

グループホームを整備したい」と斉藤好行所長。そのためにも施設の法人化は不可欠だと話します。法人化すると、施設の運営費がおよそ二倍に増え、グループホームやホームヘルプ事業など障害者のための総合的な支援が行えるようになるからです。現在、市内には、身体、知的、精神に障害のあるかた約一万五千人が暮らしています。そして、それぞれ障害の種類や程度に応じて、自分なりに前向きに生きようとしていきます。障害のある人となない人が共に暮らしていくための「私たちの役割」を考えていきたいものです。